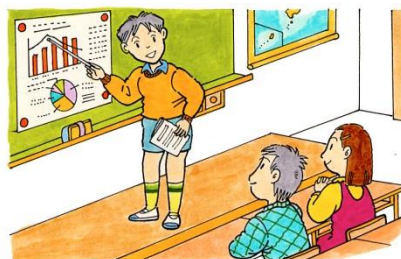


授業のコツ 白島教育のスタンダード



No.1	学習・活動の前に…準備 e t c.
【効果】○全校で共通理解の基で、継続した指導をすることができる。	
【あたたかな学級づくりを！】 ・互いに認め合える学級づくりがあってこそ、学び合いの学習が成立します。 【児童の呼び方の統一】 ・授業中は、基本、「さん」づけ。 【教室では…】 ・基本、児童機の横には、荷物をぶら下げないようにし、机を動かしたり、子どもや教師が移動したりしやすくしておく。 ・窓際には机や棚などを置かず、窓から外へものが落ちないようにする。 ・ロッカーを含め、必要のないものを上に置かないよう心掛ける。 【自分の考えを深め、「なかま」と学ぶための“思考ツール”があります】 ネームプレート ・1人2枚を配布。 ・1枚は児童机の前。1枚は黒板等、教師の手元に。 ・6年間使う予定。 ・姓は漢字。名はひらがな。裏表に書く。 ホワイトボード ☆学校が所有しているものです。使用時に教室へ移動させて使ってください。 プロジェクターを使用時、板書スペースの準備のために使ってください。 ・ぬりかべ（特大）…6枚 ・配膳台の幅（大）…5枚 ・ミニボード（小）…多数あり ICT機器 ・タブレットパソコン、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、実物投影機 ・液晶プロジェクター、電子黒板、インタラクティブボード 【ポイント】 ○児童机前のネームプレートは、担任以外が授業に入ったとき、助かります。 ○すっきりとした教室は、入って気持ちがいいものです。荷物をなくすことで転倒などの事故も減らせます。 ○“思考ツール”は、学年・学級の実態に合わせて、積極的に使えば、自分の考えを広げ深められるもとであると考えています。	



No.2	挙手・指名と発言
【効果】○生活場面とのめりはりをつけた学習環境をつくることができる。 ○発表者が達成感を味わうことができる。 ○発表や意見を聞く力を培うことができる。	
【基本の進め方】  教師：「〇〇についてどう思いますか？」  発表児童：（指先をぴんと伸ばし、ひじを曲げずに静かに挙手）  教師：「〇〇さん」 （性別を問わず、姓で“・・・さん”と指名し、 同姓の児童がいる場合は、ファーストネームまで呼ぶようにする）  発表児童：「はい」（返事をしてから音を立てずに静かに立つ）  他の児童は発表者の方へおへそを向けるようにして注目する。  発表者は自分に視線が向けられたことを確かめてから 「〇〇〇です（と思います）。どうですか？」 ハンドサインを用いる場面では仲間の反応を確かめてから着席、 または、相互指名による話し合い等では次の児童を指名し着席。 相互指名においても「〇〇さん」と呼び合わせる。	
【ポイント】 ○教師が期待する答えが発表されたからといって、そこで指名・発言の場面を終えないようにすると、発言しようとする意欲を持続することができる。 ○課外活動「〇〇くん」と呼んだりニックネームで呼び合ったりすることは構わないが、日常的に学習活動中であることを意識させるようにする。	

No.3	話形 ～話したくなる・聞きやすくなる話し合い活動～
【効果】○話形を意識させ、定着させることで、発言・発表をしやすくなる。 ○学年・学級の実態・発達段階に合わせて使うことで、話形の質が高めやすくなる。	
【発言・発表で…】 すすんで発言・発表する 「ぼく（わたし）は、〇〇です。」 問い返す 「ぼく（わたし）は、〇〇だと思います。どうですか？」 理由を説明する 考えをもつ 違いを説明する 語尾を変えて発言できる 「…です。」「…と思います。」「…考えました。」 結論を言ってから、理由を加える 出典など考えのもとを説明できる その理由は・・・   【発言・発表を聞いて・受けて…】 仲間の意見と比べる 「□□さんにとっている（ちがっている）のですが、・・・。」 「わたし（ぼく）は、 〇〇さんの意見に付け足し（反対・賛成）です。」 立場をはっきりさせる 「わたし（ぼく）は、〇〇さんの意見に付け足し（反対・賛成・質問）で、〇〇です（だと思います）。」 理由を明らかにする 聞き手に伝わりやすくするために、前置きしてから話す 「わたしの伝えたいことは3つあります。1つめに…」	
【ポイント】 ○まずは、すすんで発言・発表できること。次に、意見を求めて仲間に考えをもたせたり自分の考えを比べたりして、話し合い活動が活発になることを目指します。 ○特定の児童の発表が続かないよう、ハンドサインなどを併用して、違う立場や発言に消極的な児童の意見を引き出し工夫するとよいでしょう。	

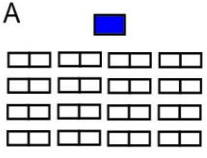
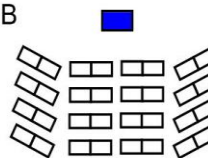
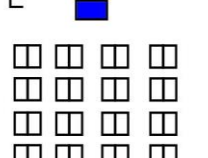
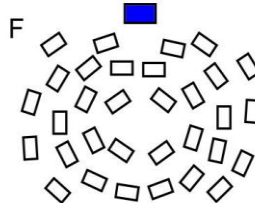
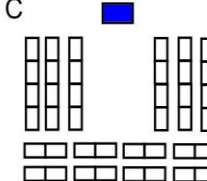
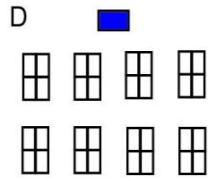
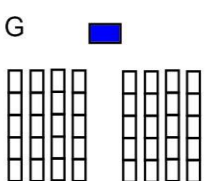
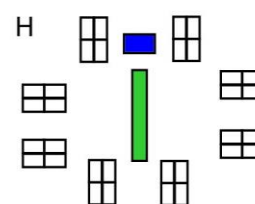
No.4	声の大きさ ～時と場に応じた発言ができる～
【効果】○ 時と場所に応じて声の大きさを意識して変えて、相手に分かりやすい発言ができるようにする。	
【活用の仕方】○ 子どもの発達段階に合わせて、表示を変えて指導を行うようにする。 (低学年)	
声のものさし 0 1 2 3 4  となりのひとにきこえるように グループのひとにきこえるように きょうしつみんなにきこえるように こうていにいるひとにきこえるように	
(中学年・高学年)	
声のものさし 0 1 2 3 4  となりの人に聞こえるように グループの人に聞こえるように 教室のみんなに聞こえるように 校庭にいる人に聞こえるように	
【ポイント】 ○ 時と場に応じた発言することが難しい子には、低学年の場合「ライオンさんの声で言ってみよう」と教師の助言も時と場に応じて変えるようにし、意識の持続化を図るようにしたい。 ○ 時と場に応じた発言の指導と共に、聞き手の話の聞き方も合わせて指導していきたい。	

このような掲示物を教室に掲示し、指導する。

文字の部分は低学年・中学年・高学年共通にし、場面ごとの声の大きさを伝えていく。

〈掲示場所〉

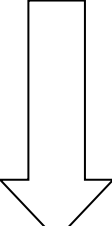
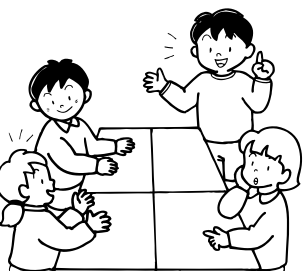
子どもの目が届きやすい場所（教室前面など）に掲示する。

No.5	机の配置
	【効果】○通常の学習場面とのめりはりをつけた学習環境をつくることができる。 ○目的意識と「学び合う」という雰囲気をつくり出しやすい。 【配置の様々なパターン】 A  B  E  F  C  D  G  H  A：通常パターン (基本の配置とすると、めりはりがつけやすい。) B：講義パターン (資料を見ての話し合いやゲストティーチャーへの質疑タイムなど、視点を集めることで話し合い内容が焦点化されやすい。) C：コの字パターン (全員が発表者の顔を見て話を聞くことができるため、集中して聞くことができる。) D：グループ話し合いパターン (子どもが気軽に発言できる。画用紙に付箋を貼っていく形やホワイトボードに意見をまとめていく形の話し合いに向いている。) E：ペア話し合いパターン (「運動場側はA、廊下側はB」として意見を考えさせることで、全体で話し合う前に双方の立場を考慮したうえで、自分の意見をもつことができる。短時間で意見交換という意識がよい。) F：北極星パターン (全員の視点が真ん中に集中するため、各自の立場カードやレベルシートなどを確認しやすく、全員の考えが伝わりやすい。板書は活用しづらい。) G：討論パターン (立場を決め、運動場側・廊下側に分かれることでチーム戦感覚で話し合うことができる。「考えを深めること」よりも、「違う立場の考えを知ること」に向いている。) H：調べ学習パターン (真ん中のスペースに資料を掲示したり、配置したりすることで調べ学習をしやすくなる。)
	【ポイント】 ○定番となるパターンを決め、継続して使うことで、一つの指示で瞬時に、目的に応じた学習環境をつくり出すことができるようになる。

No.6	ハンドサイン
【効果】○ 一人一人のもつ考えを確認できる。 ○ 全員で学習を進めていることを実感できる。	
     【発表・意見】 【賛 成】 【反 対】 【付け足し】 【分らない・考え中】	
<手 順> ハンドサインを教室前面に掲示して授業に活用する ①【意見】 …教師の発問に対する考えを述べるサイン。意見を述べた後、「どうですか。」など、他の子に考えを尋ねると、話が進む。 ②【賛 成】 …不安な子にとっては「私も同じだよ」というサインとなり、安心して出せる。受け手は、同意を得られて自信につながる。 ③【反 対】 …内容を発展させるサイン。違う考えや立場であることを表す。話し合いが広がる。 「反対」という単語がきつく感じる時もあるので、その場合は、「〇〇さんとは少し違って…」と言い換えるとよい。 ④【付け足し】 …内容を付け加えることによって、主となる意見をより確かなものとする。「賛成」に類似する部分もあるので、使い分けに工夫がいる。 ⑤【分らない】 …発表者に自分の考えを振り返らせ、さらに詳しくゆっくりと説明をさせる必要がある。 【ポイント】 ○ 一度発言をすると、その後拳手をやめてしまう子どもがいる。自分の考えを言えば終わりではない。人の話を聞くことで、自分の考えが深まったり、広まったりしてより確かなものになるはずである。教師の望む意見が出た時に、過度に反応したり、話し合いを終えたりすると、子どもは教師の顔色をうかがって発言するようになってしまう。常に、自分の立場をはっきりさせることやみんなで考えを作り上げることを意識させる。友達の意見を聞いたら必ず反応するという習慣を身に付けさせるとスムーズに行える。相互指名と連動させて使うと効果的である。	

No.7	ネームプレート
【効果】 ○ 話し合い場面において、一人一人が意思表示しやすい。 ○ 思いや考えを視覚化することで、自分や友達の思いや考えを意識することができる。	
【規格】 ○ サイズ・・・大きな物は名前が見やすいが、黒板やホワイトボードのスペース的に、入りきれなくなることもある。教室の最後部座席から文字が見える程度で、大きすぎないものを使いやすい。 ○ 色・・・黒板には白色・黄色共に見やすい。しかし、白色はチョークと同化して目立たず、黄色だと強調されてしまうこともある。ホワイトボードに白色は見えにくい。枠飾りの付いたものや、チョークと異なる色だと見やすく、板書との区別もつきやすい。 ○ 文字・・・氏名は名字のみで、同じ名字の児童がいる場合は、名前の頭文字を加える。文字体は、ゴシックなどの太いものが見やすい。 入学当初の1年生は写真カードを使用。 【使用場面】 ○ 話し合いにおける、立場を表す。 ○ 学習における、到達度や認知度等を自己評価する場面で使用する。 ○ 児童の発言を板書する際、誰の発言かを残すために使用する。 【H26に使用した成果◎と課題●】 ◎ 視覚的に考えを残すことができた。 ◎ 進んで発言することが難しい児童も、ネームプレートでは賛成・反対の意思を伝えることができた。 ◎ 友達の立場や考えを視覚で捉えることができるため、自分と立場の異なる友達の考えに対する関心が高まったり、自分と友達の考えの共通点や相違点に目を向けたりすることができた。 ◎ 話し合いの中で、互いの立場や考えの変容を捉えることができた。また、指導者はその変容を生かして、話し合い活動を進めることができた。 ● ネームプレートは自分の立場を明確にすることもできるが、それにより「自分だけ」と思ってしまう児童もいる。少数派の意見も大切にできる雰囲気を作ることが必要である。	
【ポイント】 ○ ネームプレートは、全員参加の話し合い活動において有効である。 いつ、どこに、何のために提示するかにより、必要なサイズや色などが変わるため、その話し合いに合うものを考えて作るとよい。	

No.8	相互指名
【効果】 ○ 児童が発言をつなぎながら話し合うため、互いに認め合いながら授業を進めることができる。 ○ 教師は、指名することがないため、板書に発言内容を整理しやすい。 ○ ハンドサインや質問等を取り入れていくことで、全員が話し合いに参加しようとする意識を高めることができる。	
【基本的な進め方】 教師：「巨大地震の被害を防ぐためにこれからどのような取り組みをしていけばよいと思いますか。」 児童：（挙手） 教師：「Aさんから同じ考えの人で、相互指名をして、つないでいきましょう。」 A児：「はい。わたしは、〇〇が…をしていけばよいと思います。どうですか。」 B児：「はい。わたしは、〇〇が…をしていけば巨大地震の被害を防ぐことができると思います。どうですか」「Cさん」 C児：「わたしは、Aさんの～という考えに付け足しをします。…」 教師：「違う考えの人でもつないでいてください。」 D児：「ぼくは、Bさんに反対です。なぜなら…」 ・・・ 教師：「Dさんは、～という考えをもっていますが、どのように思いますか。」 E児：「はい。わたしは、Dさんの考えに賛成です。なぜなら…」	
【ポイント】 ○ <u>相互氏名の問題点</u>として、北俊夫氏は以下の3点を挙げている。 ・ 発言する子どもが偏ること。 ・ 子どもの関心や好みで、次の発言者が決められること。 ・ 発言の内容に相互の関連性が薄く、学習に深まりが見られないこと。 したがって、意図的指名と相互指名とを効果的に使い分けることが大切となる。 ○ 教師は、児童の発言を板書に整理しながらも、「これは…ということですか」「△△についてもう少し教えてください」などと問い直しをしていくとよい。そうすることで、発表者だけでなく、聞いている他者の考えも広がったり、深まったりしていく。 ○ 教師は、話し合いの流れから、「〇〇さんは同じような考えをもっていましたね。発表してください」「〇〇さんはどのように思いますか」など、意図的指名を織り交ぜていくと話し合いがまとまっていく。 ○ 発表と反応の仕方を、「発表」→「ハンドサイン」（賛成の児童は手を下ろす）→「付け足し（反対）の〇〇さん」とつないでいる学年もある。児童の実態に合わせて形態を工夫するとよい。	

No.9	声の大きさを引き出すために
【効果】○声を大きくすることで、聞き手が聞き取りやすくなる。 ○場に合った声の大きさを習得することで、ペア・グループ・全体の場での話し合いが活発に行うことができる。	
【個人で（話す側）】  ① 答えに自信がない。 みんなになんて思われるか心配。 どう話せばよいかわからない。 ＜声の小さい児童＞  ① 声を出す練習 人前で声を出すことに慣れる。 声の大きさレベル1～5を確認できる ② 聞き取りやすい声の出し方 ゆっくりと話す （低学年）口を大きく開けて（高学年）はっきりと ③ 発言・発表への準備 ペアで話し、答えに自信をもつ 話すことを事前に考え、発表の準備をする ＜声が大きく出せる児童＞ 【全体で・・・】 1. 落ち着いた雰囲気をつくる 2. 聞き手が聞く姿勢をとる 3. 見本となる子をほめる 	
【ポイント】 ○ 子どもが発言を教師が返したり言い換えたりして内容を確認する。 ⇒話の要点をまとめることができる。 ⇒教師がスピーカー役となることで、全員が話し合いに参加できる。 ⇒小さな声での発言でも、「先生は聞こえたよ」と思わせることができる。 ○ 「言う」ではなく、「伝える」ことを目標にする。 ⇒自分基準から相手基準になる。 例：「～～について発表しましょう」⇒「～～をみんなに伝えましょう」	

No.1 ○	発言を増やす工夫・発表の力をつける工夫
	【効果】○発言の機会を多くし、発表の習慣をつけることができる。 ○たくさんの児童に発言機会をつくることができる。 ○複数児童の中でも、自分の意見を発表する力をつけることができる。 ○教師による意図的な指名を続けることで、「次は自分かも」と教師の話を集中して聞く習慣も身に付けられる。
	【発言の機会を増やしたい時には…】 教師：「○○についてどう思いますか？」 児童：（指先をぴんと伸ばし、ひじを曲げずに静かに挙手）  教師：「○○さん」と「□□さん」と「☆☆さん」（複数を指名する） 指名された児童：（起立して発表準備） ＜指名された順に発表する＞ 児童○○：「・・・・・・・・」 児童□□：「・・・・・・・・」 児童☆☆：「・・・・・・・・」 
 	【発言機会が少なくなってきた時は…】 教師：「教科書の▷▷を、○○さん、読んでください」 児童○○：「・・・・・・・・」 教師：「大切なところがあったね。 （どこが大切でしたか？ 分かった人はいますか？）」 □□さん、☆☆さん、もう一度読んでください」 児童□□：「・・・・・・・・」
	【ポイント】 ○1時間の間に、一人1回は発言して、声を教室に響かせることが目標です。 ○答えが同じ・違うことや前の児童の真似をすることは活動上の問題としないようにします。発言する機会があり経験を多く積ませることができるよう、どんどん発言させましょう。同時に、話を聞く態度も養いたいものです。 ○中学年以降では、「○○さんの意見に賛成（反対）で、…」と発言をつないでいけるようにしましょう。 ○意図的でも挙手をさせてからでも良いので、学習活動を活発にするためにも、児童に多く発言させます。 ○読ませる部分は、学習問題・学習課題でも、児童・グループの発表内容や「ポイント」になるところでも、繰り返し発言させて課題などを焦点化できます。 ○導入でも振り返り場面でも、必要な場面で声に出させることで、発言の習慣付けができるようになると良いでしょう。

No.1 1	教室掲示（前面）と教室基本配置
	【効果】○統一した掲示にして、全校で育てたい児童像を明確にします。 ○学年・学級目標を掲げ、年間を通しての学級経営にいかせます。 ○常掲された学習活動で気をつけさせたいことや授業中のルールがいつでも確認できます。
	【基本掲示物と掲示場所】

No.12 教室掲示（背面）－学習の足あと－

【効果】○子どもが学習内容をいつでも確認できる環境をつくり、理解を確かにできるようにします。

○導入に全員で後ろを向き、前時の学習を振り返ることができます。

＜教室背面に掲示した学習のあしあと（6年「新しい日本、平和な日本へ」＞

「学習のきっかけ」

- 単元の導入で使った資料等（1枚の場合や2枚を対比した場合などによって形は変わる）
- 資料から生まれた子どもの気づきや疑問、話し合いで出た発言 など

「子どもの気づきや疑問」

- 学習問題を設定するきっかけとなった子どもの気づきや疑問 など

「小単元の学習問題」

- 本時の「学習課題」や「めあて」との区別

「学習のあしあと」（みんなで調べて分かったこと）

- 「子どもが掲示を見ながら、これまでの学習を振り返ることで、活用できる知識を探ることができる」「掲示を見ながら学習を振り返ることで、協働のよさや課題を見出すことができる」という役割を重視する。
- 下は、追究する度に、調べたことをまとめた面用紙を追加していく例（各時間に複数の視点から調べる場合に適切）
- 右は、1時間の学習内容を1枚の模造紙にまとめていく例（各時間に一つの視点から調べる場合に適切）
- 下の例は教師が作製しているが、各時間で使用した資料に加えて子どもの学習プリントなどを載せて、各時間における子どもの考えやその変化が分かるようにすることもできる。

「プロジェクトシート」

- 学習問題に対する予想を話し合い、これから調べていくことや、調べる視点をまとめる。
- 追究して明らかになったことには、シールを貼ったり、下線を引いたりすることで、まだ明らかになっていないことを明確にし、学習の見直しをもたせていく。
- 追究の過程で生まれた疑問も、新たに調べるものとして、随時追加する。
- 特に「社会が分かる段階」では、各時間の導入と終末の振り返りの際に活用していく。

「関わる段階」に向け、子どもの考えを掘り下げる資料

- 社会に関わる段階で、子どもの考えを更に深めるための新たな問いの設定につながる資料
- 子どもの声を提示する。
- 右のように、関わる段階の話し合いにおける子どもの考えの位置付けや関わりを可視化したり、その後の展開を予想させることで、次単元への見直しをもたせたりすることもできる。

＜学習の足あとを活用した授業導入の振り返り活動＞

T: 3人業績に共通するものは何だろう？
学習のあしあとにヒントはないかな？

C7: 3人とも戦い、政治、
外国との関わりで、業績を
残しているね。

協働の
よさや課題

C8: こうして見ると、3人のしたことは、
どんどんつながっているように見えるね。

C9: 前の人の良いところや足りな
かったことを受け継いだということかな。

C10: これを見ると、天下もろの
歌の意味がよく分かるね。

学習を振り返りながら、協働のよさや課題を見出していく

・授業の中で、子どもが体の向きを変え、全員が視線を集中させることで、動きのある授業になります。

・授業後や休み時間にも見ることができ、単元を通した問題意識の連続にもつながります。

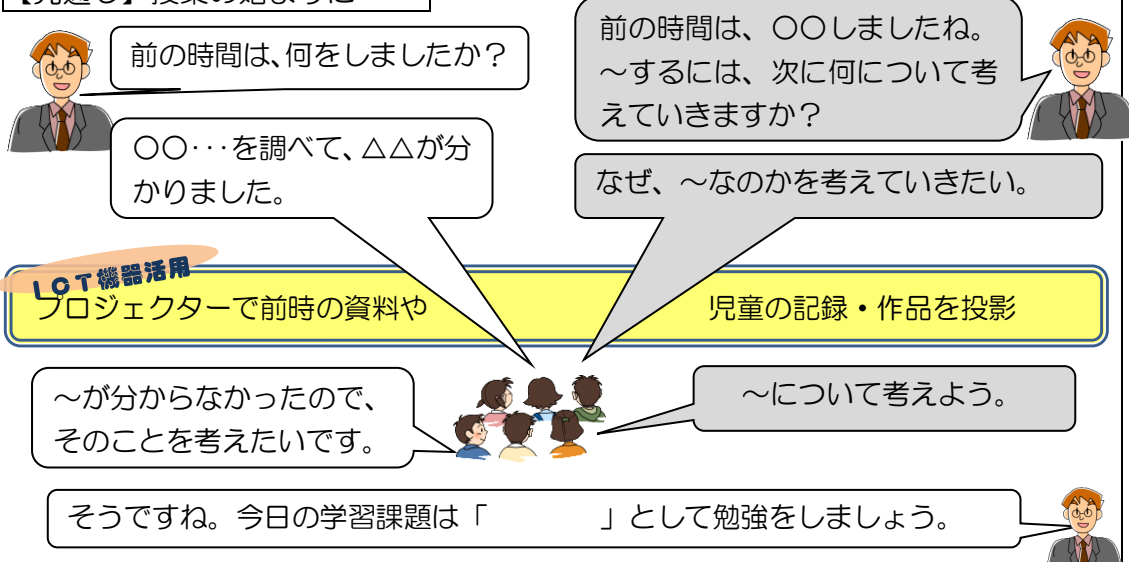
2017. 3. 20

No.13

「見通し」「振り返り」場面の設定

【効果】見通し…前時の学習を想起するとともに、本時の「学習課題（ねらい）」をつかみ学習への見通しをもたせることができます。
 振り返り…本時の学習課題をまとめ学習を整理するとともに、分かったことや考えたことなどを表現させることで、次の学びへの意欲をもたせることができます。

【見通し】授業の始まりに…



前の時間は、何をしましたか？

前の時間は、〇〇しましたね。
～するには、次に何について考えていきますか？

〇〇…を調べて、△△が分かりました。

なぜ、～なのかを考えていきたい。

IoT機器活用 プロジェクターで前時の資料や

児童の記録・作品を投影

～が分からなかったので、そのことを考えたいです。

～について考えよう。

そうですね。今日の学習課題は「 」として勉強をしましょう。

学習課題は板書をしましょう。学習課題を提示することで、本時で「何ができればいいのか・分かればいいのか」を子どもに意識させます。子どもと、前時の学習を振り返りながら、学習への見通しをもたせます。

【振り返り】授業の終末に…

本時の学習を振り返る時間をとるように心掛けましょう。

「言葉で書かせる・発表させる・小グループで話し合う」などを行うことで、学習したことを再確認させます。書かせるときはノートに2～3文や3～5行程度など発達段階に応じて考えましょう。

- ・学習課題（めあて）に対しては、本時で学んだことを「まとめ」る。
- ・振り返りは、新しく分かったことや考えたこと、もっと知りたいこと、気付きなど次の学びにつながる「振り返り」と捉えましょう。

IoT機器活用 プロジェクターで振り返り資料や児童の記録・作品を投影

振り返ることが、一人一人の学びの深まりとなり、次の学びへの意欲につながっていきます。

No.14 ICT機器活用のすすめ

【効果】教室に設置されているプロジェクターや学級用に割り当てられている教師用タブレットなどのICT機器を活用することで、思考の可視化や学習課題・問題などを焦点化でき、より分かりやすい指導・発表が可能になります。

各教室に、プロジェクターとインターフェースボックスが設置されています。



インターフェースボックスに接続することで、

実物投影機

DVDプレーヤー

ノート型コンピュータ

児童機タブレット



などが接続でき、音声も含めた動静止画がプロジェクターに投影できます。

が、

教師機タブレットは、無線LANでプロジェクターと接続されており、「**投影**」ボタンで簡単にプロジェクターに画面が映し出せます。

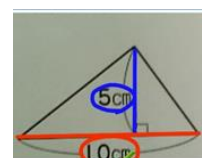
しかも、



タブレットは、実物投影機・デジタルカメラ・ビデオカメラの機能をもっており、「見通し」「振り返り」などの場面でも簡単に活用できます。

例えば、

- ☆児童のノートを撮影して映し出す
- ☆教科書・資料集の挿絵・グラフを映し出す
- ☆児童の作品を映し出す



マーキングの機能や電子黒板用ペンを使用すれば、解説・説明したいところを焦点化させられます。

【ポイント】

まずは、プロジェクターでタブレット画面を映し出すことから使ってみると、他の機器でも応用ができます。次に焦点化のための使い方をしてみましょう。チョークやペンを使っても効果は同じなので、使いこなそうと考えずに使えるところから使ってみてください。タブレットを使い慣れていけば拡大・縮小などの表示の工夫も、自然に覚えられ学習効果を高められます。